メキシコの旅

山と遺跡とモナルカ蝶

【２００９・２・１８～２６】

Ⅰ、未知の国での山歩き

　メキシコに関する知識は、映像や書籍で得たものばかりで、ＣＬ以外は正に未知の国。
生水は絶対ダメで更に、日本製の下痢止薬は効かない。置き引きスリは無論誘拐もありで、一人歩きは厳禁。更に２月の同地の気温は最低８°～ 最高３０°で１日に四季があるとの説明を受けて不安と準備に頭を悩まし、沢山の荷物と緊張感満杯で例会が始まった。

◆　ベニヤ･デ･ベルナル登山【2／21･例会3日目】

世界３番目大きい岩山　ベルナル山　△１９５０ｍ

サボテンの花

ベニヤとは『石の山』と云う意味で、標高１９５０ｍ世界で三番目に大きい岩山とのこと、メキシコ第３の都市で、工業都市でもあるケレタロから車で約６０分、メキシコシティーから１８０分のロケーションにある。ベルナル村はこの山への観光客で成り立っている模様、山はその名の通り岩肌が露出したほぼ独立峰で嶮しく美しい。登山口で明昭体操を行いメキシコの山に初挑戦、いきなり急登で削られた岩肌の道を進む、コマメに休憩と水補給を行いながら高度を稼ぐ、いつの間にか一匹の白犬が前後しながら我がパーティの一員となる、勝手にポチと命名。荒々しい切り立った岩肌をバックに写真を撮りながら、所によっては三点確保を行う。頂上まで残り数十メートルの地点で更に嶮しい登りに差しかかるが、その先はザイルワークが必要で、最近は一般客の登山は禁止しているらしい。ついて来た犬や、後から登ってきた先住民の子供達と一緒に写真を撮り残念ながらここで引き返すことに。ベニヤ・デ・ベルナルを望むレストランで遅い昼食を摂りメキシコへ向かう。

麓で体操の後、全員揃ってイザ出発・・・

９合目でストップ一般はここまで

◆　モナルカ蝶の観察【2／21･例会4日目】

モナルカ蝶（オオカバマダラ）地面で羽をやすめている

モミの木は蝶で覆われている、重みで枝が垂れ下がる・・

モナルカ蝶はカナダから北米大陸４千 km を縦断してメキシコに飛来、点在するコロニーに集結しその数１億匹とも云われる。今回観察地としたピエドラ・エラドゥラ(先住民語➔冷たい石)はメキシコシティーからバスで約１２０分、標高２６００～３０００mで、コロニーまでは乾燥した粘土道で土埃が舞い上がる登山道である、馬に乗った観光客の往来もあり狭い道はゴッタ返している。約５０分で到達したがコロニーは想像していたより範囲が狭いようで、樹木等があって接近することが難しい。枯れ葉が密集した大木と見えていた『枯れ葉』が蝶の集団で重みに枝が垂れ下がるほど、時に何かに驚いて蝶が一斉に飛び立つ様は圧巻である。この蝶はカナダから世代交代を繰り返しながらメキシコに到達、同じようにしてカナダへ帰っていく個体もあるとのことで、その不思議な生態は各国協同で調査をしているが未だ未解明な点が多いとのこと。もっと群舞する姿を見たかったが、その機会に接するのは難しいとのことであった。

昼食は避暑地でとして有名なパジェ・デ・ブラボのフランス系オーナー経営のレストランへ、日差しは真夏の趣である。ところがバスでメキシコシティーに帰る途中の峠は来るときには見なかった雪で一面真っ白、雹が降り積もったらしい、先ほどの暑さとは様変わりで、メキシコでは珍しい出来事で脱輪した車で渋滞が始まる。この天気急変が明日の登山に影響することも知らずに銀世界を楽しみながらホテルへ向かう。

◆アフスコ山登山【2／22･例会5日目】

アフスコ山登山
雪とガス悪天候で登山禁止
でも私達ベテランで経験者揃いの人達なので２時間の登山許可がおりました。３５５０mまで１時間登ったところで引き返し、心残り・・・
残念無念！！

準備でき、ガスの中さあー出発

ガレ場をゆっくりと登る・・・

ガイドと山岳レンジャーの人と仲良く

アフスコ山はメキシコシティーから車で約６０分南に位置し、標高３９８０m、各人ホテルで弁当の朝食を摂った後７：００に登山ガイドと共にホテルを出発。気温も昨日に一転して低く、ガスが発生した模様で心配。ガイドは風が出て寒いが登山には大丈夫とのご託宣。それでも進むほどにガスが濃くなる。３２８０ｍの登山口に到着、周囲は相変わらずの深いガスと強い風、併せて『雪』か『雹』が積もったのか真っ白である。現地の人にとっては雪が珍しくてはしゃいでおり、来る途中の道端には物売りも出ていたようである。天候回復を期待して取り敢えず体操に取りかかる。体操の終わる頃メキシコ観光のガイドと登山ガイドがメキシコ市の山岳レンジャーを連れて事情説明を始めた、レンジャーの指示は悪天候の為登山は禁止となっている、但し聴くところによれば明昭の一行は登山経験豊富でもあるので『片道１時間』の登山に限って許可するとのこと、やむを得ずこの提案を受け入れレンジャーも同行して歩き始める。登山口で軽い高山病の症状の人も居たが、雪を被った急登の道、時々強風が来る中をユックリと進む、ガスで視界も利かない。結局約束の９：２０高度３５５０mの地点で引き返しの指令、１０：１０トレッキング終了、残念至極。

午後からは予定になかった**『国立人類博物館』**へ行くことに。これが今回のもう一つのテーマーである、メキシコ遺跡の観光に大いに役立つこととなった。正に怪我の功名でもある

国立人物学博物館―太陽の石　アステカ・カレンダー

トルテカ文明―カカシュトラの色鮮やかな壁画

チチェン・イツァー遺跡
チャック・モール像

バカル王のヒスイの仮面

オルカメ文明―巨大人頭像

Ⅱ、世界遺産と遺跡の宝庫

今回の例会でのもう一つの柱である世界遺産と遺跡巡り、百聞は一見に如かずで、メキシコ半島の歴史の奥深さと、美しさを堪能した。

ダラス空港で乗り継いだ機は一路メキシコの『レオン空港』へ眼下のアメリカ南部は相変わらず広大な平野が続き、日没と共に家並みの灯・道路灯・施設の灯りがオレンジ・赤・青・白と洪水の如く溢れ、まるで西陣織の抽象画を見る如く美しい。

メキシコ国境を越えると急に眼下の光は途絶え、ボンヤリとした道路灯や集落の小さな光の塊のみ、それでもレオンに入ると上空から見る町の光はダラスと違い、オレンジ色が中心で優しく心和む光の海が迎えてくれる。

２２：４０千葉ガイドの出迎えを受けて、車で約３０分昔の荘園跡を改築したグアナファトの『ミッション・グアナファト』ホテルに到着、空にはオリオン座が輝き我々を迎える。深夜ではあるがランチボックスで遅い夕食を取るため、ホテルでビールを調達してＳＬの部屋で乾杯と腹ごしらえをすることに、所が集まってビール(小瓶)の値段を聞くと、同じボーイから買ったのに３本で７米ドル～５米ドルと区々で、今後の買い物に対する心構えとなった。　所で円からペソへの直接交換は出来ないため、日本で米ドルにチェンジして、当地でペソに交換することになっており、感覚としては　１００円＝１米ドル＝１０ペソ　であるが実際の交換レートは概ね　９５円＝１米ドル＝１４ペソ　であり、所によっては米ドルで買い物が出来、お釣りはペソで帰ってくる。ここに又買い物の楽しさが加わることになった。

◆　童話の様な世界遺産都市～グアナファト～【2／19･例会2日目】

ピピラの丘よりグアナファトの町並みバックに

独立戦争の英雄ピピラ像

ラバス広場に建つパシリカ

メキシコを代表するファレス大劇場

ロマンチィックな雰囲気な口付けの小道

グアナファトは銀の産出で栄え、旧い建物群・教会・パステル調に彩色された各住居、童話の世界である。住居を改築するときは壁面の色は役場から指定されるとのこと、道路は坂が多く、石畳が敷かれ、銀の採掘時の排水用下水路が今は地下道路に改装され、町中縦横に巡らされ歩道・車道として利用街全体が世界遺産に登録されている。ミイラ博物館には１００体以上のミイラを展示しており、ここのミイラは死後特別の措置を施したものではなく、この地の乾燥と土質が普通土葬の遺体をミイラ化したもので、いろんなミイラが展示されており、博物館を出ると物売りが『ミイラ』を象った飴を売りに来る、余り気持ちの良いものは無かった。

独立の英雄を奉る『ピピラの丘』からは市街が一望、改めて美しい町並みを眺める。この丘を下っていき、石畳の街にある爺さん？お婆さん？(我々と同年輩かも)二人が営む小さな陶器店へ、狭い店内には陶器製の洒落た模様の酒器や、飾り物が並べられ値段がペソで表示されている、価格交渉を受けるのは専ら『お婆さん』の役割、時々『お爺さん』の顔色を窺いながら値決めをする。一方我が明昭の淑女は『クアント・クエスタ？**～いくらですか～**』『マス・バラート**～もっと安く～**』とスペイン語のメモと電算器で約７０分に亘り、買い物を楽しんでいた。これもホテルでの『ビール』購入の学習効果でしょうか。このお店ではペソ表示価格の支払いに米ドルを使用したが、変換レートは１米ドル＝１４ペソで良心的に換算してくれた。このあと駄菓子屋でチョコを買う機会があったが、この店では１米ドル＝１０ペソを提示した途端淑女は買い物を諦め、銀行でペソに両替してから改めて２００円程度の買い物を、この差約８円、面目躍如の所行ではありました。

囀りや女逞しくスペイン語

遅い昼食の後～そう云えばメキシコには『シエスタ』と云う遅昼食を長時間かけて摂る風習がある～
グアナファトを出発サンミゲル・デ・アジェンデへ、この街もサーモンピンクの敷石の坂と、同じ色の石材を使った教会が美しい。

春昼や大聖堂への石畳

美しく、ロマンチックな街に別れを告げて世界第３の岩山を目指して、次の街ケレタロへ。

１ｋｍ以上に及ぶ水道橋（バスの中で）

サンミゲル教会

鉱山ブームでもたらされた
富の街、石畳の小道

◆　メキシコシティー市内【2／23･例会6日目午前】

メキシコシティーはアステカ帝国とスペイン植民地時代の旧跡が点在し先ずは市内観光から、街の中心部と云わるソカロ(ＺＯＣＡＬＯ)へ、広場は大統領を迎えての行事があるらしく物々しい雰囲気の警戒で立ち入り不可、やむを得ずバスから降りて１００年かけて完成した教会～メトロポリタン・カテドラル(大聖堂)～へ、内部は高い天井とバロック様式で修飾された重厚な造りである。大聖堂の近くには国立宮殿の建物(９／１５独立記念日にはバルコニーに大統領が立ちソカロを埋めた数万の民衆と祝う)や、アステカ帝国の中央神殿跡なども、その中でひげ面の恰幅の良い小父さんが、公衆トイレの呼び込みをしているのが滑稽ではあった。そのほか２万人収容可能な聖堂を持つ褐色の聖母を奉るグアダルーペ寺院など、市内にはアステカ時代からの歴史を刻んだ施設や建造物が溢れており１０日かけても見切れないほどである。

コロニアル建築が並ぶ街の中心街ソロカ周辺

メトロポリタン・カテドラルの礼拝堂

グアダルーペ寺院
メキシコ最大の聖地新旧向かい合って建っている

グアダルーペ聖母（中央祭壇にまつられている）

◆　ラテンアメリカ最大の都市遺跡～テオティワカン～【2／23･例会6日目午後】

例会５日目アフスコ登山中止の後訪れた『国立人類博物館』は入場料５１ペソ(６０歳以上は無料要パスポートでの証明)、館内にはメキシコから中央アメリカに点在した古代文明遺跡の発掘品を実物やレプリカの展示を見ながら約２．５時間千葉ガイドの的確な解説で遺跡見学の予備知識を仕入れることが出来、望外の結果が得られた

テォティワカン遺跡―太陽のピラミッドの前で

テオティワカン遺跡－２ｋｍに渡って延びる死者の道

月のピラミッド

テオティワカン遺跡―壁画

ケツァルコアトルの神殿

ラテンアメリカ最大の都市遺跡であるテオティワカンへはバスで約４０分、途中沿道の丘には土地を不法占拠して建てられた小屋で埋め尽くされたスラム街が続く。撤去しても撤去しても翌日には又建てられ、盗電した電気を引き込んで生活しているとのこと。

アステカ人が発見したテオティワカン～神々の都市～は広大な敷地にアステカ人命名の『太陽のピラミッド』と『月のピラミッド』、その他宮殿・神殿の跡が配置されている。この巨大なピラミッド都市を建設した『テオティ・ワカン人』と呼ばれる人々は８世紀頃謎の滅亡により消え去ったらしい。

太陽のピラミッドは底辺の１辺２２５m・高さ６５m。２４８段の急階段を登った頂上からは・
広い範囲に亘って点在する建造物を一望することが出来、吹く風が心地よい。ここが最高に栄えた５世紀頃には人口２０万人以上を擁していたと推定される(当時のヨーロッパの最大都市人口は２万人)
当時のピラミッドは全面赤みがかった紫色に彩色され、地面は真っ白なシックイで固められ、上下水も完備されていたらしい。規模の壮大さに脱帽！！

◆ マヤ･トルテカ文明の聖地～チチェン･イツァー～【2／24･例会7日目】

チチェン・イツァー　ククルカン神殿の前で

カラコルー古代マヤ人の天文台

戦士の神殿―
上壇にチャックモール

ジャガーの神殿

メキシコの南部国境に位置し、メキシコシティーから飛行機で約２時間のユカタン半島のカンクンはカリブ海に面し、アメリカのリゾート地として栄え、現にハネムーンの若いカップルが目に付く午後の予定があるため、早朝５：３０にホテルをマイクロバスで出発、チチェン・イツアーへ向かう。
ユカタン半島はサンゴが堆積して出来た土地で、山・川・土のない所で水は硬水の地下水。車は無人の平坦な道を疾走、約３時間で遺跡に到着、この遺跡は先のテオティワカンよりよりは規模が小さいもの、ピラミッドを思わせる高さ２５mの神殿は、春分・秋分の日に、北側の階段の影がククルカン（羽毛の蛇）となって現れる、天文学・建築技術の高さを象徴する神殿である。石柱林立の戦士の神殿・神格化動物ジャガーの神殿・生け贄の心臓を供えるチャック・モール・豊穣の神への祈りの場球技場等を見て回る内に、予想だにしなかったコンドルや、イグアナに遭遇する。
最後の遺跡巡りを終えて、カリブ海を見るためカンクンに引き返す。波は高いが、澄み切ったコバルトブルーのカリブ海は、空の碧・海の蒼・波と砂浜の白のコントラストの妙に全員が歓声を上げる。日本では経験することが出来ない色彩である

風光るカモメふわりとカリブ海

III、焼き肉とマルガリータとマリアッチ

旅の楽しみはディナー、
２日目のケレタロでは、１m程の金串に刺されたブラジル風焼き肉を、スタッフが入れ替わり立ち替わり種類を替えて目の前の皿に削り落してくれる。塩味が利いて甘口のメキシコワインで戴いたが美味しい。前菜のサラダを食べ過ぎた故もあって、全種類を口に出来なかったのが心残りであった。
３日目メキシコシティーでは岩山登りの疲れをメキシコ名物の『タコス』とビールで癒す
４日目はホテル近くのレストランで、テキーラベースのカクテル『マルガリータ』を手に、マリアッチを聞き、民族舞踊を観賞、踊りはタップダンスに似た情熱的なダンス、美形の男性ボーカルの歌に、明昭女性陣は夢心地の様子。

６日目カンクンではホテルのレストランで魚料理を
白ワインで戴く、このレストランで出されたマルガリ
ータのグラスは驚きの大きさ両手で持ち上げなければ・・・
７日目カンクンの海辺レストランで女性歌手のライブをバックに
エビ料理を、ここでもマルガリータがテーブルの上に、どこのディナー
でもデザートのケーキの大きさにビックリである。皆さん体重を増や
してご帰還になるのではと心配する。

Ⅳ、飛行機の旅

今回のメキシコ例会で利用した飛行機は
往路＝伊丹➔成田➔ダラス➔レオン➔カンクン　総搭乗時間　約１７時間
復路＝カンクン➔ダラス➔成田➔伊丹　　総搭乗時間　約１８時間
そして入出国管理、乗り継ぎ手続き、バゲージのピックアップ、等は全て自己責任で行うことになっており、特にダラス経由の米国入出国は、セキュリティーチェックが厳しく、提出書類が多く、乗り継ぎのための搭乗ゲート確認等々、全員緊張気味であったが、大きなトラブルも無かった
トラブルと云えば、

① カンクンへ向かう飛行機が到着３０分前に大きなエアーポケットに遭遇、異常音と共に機体が大きく沈み、アテンダントが悲鳴を上げたときには、みんな緊張状態であった
② レオン空港でのメキシコ入国に際し、明昭メンバーの半数がバゲージの開示を求められた。

の２点くらいで、１５時間の時差と長時間のフライトとバスでの移動を克服して事故もなく、明昭精神で終始和やかに、賑やかに、笑って・食べて・呑んでの楽しい海外例会ではありました。

Ｇｒａｓｉａｓ　Ｍｅｘｉｃｏ　　Ａｄｉｏｓ　Ｍｅｘｉｃｏ